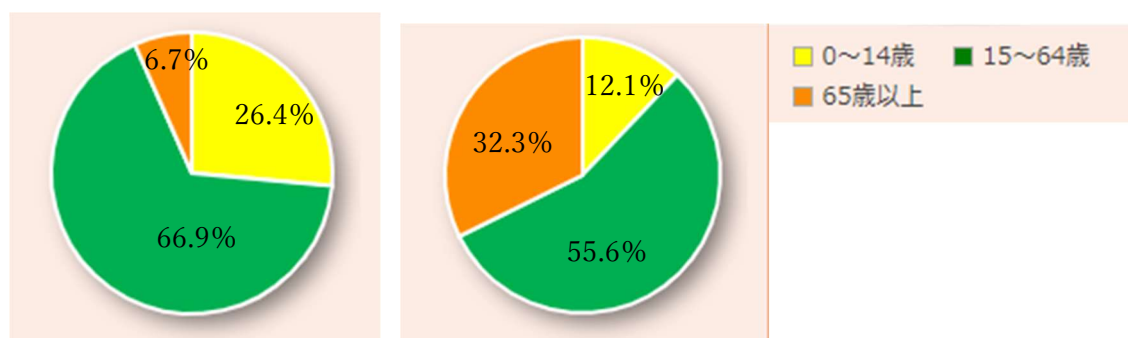
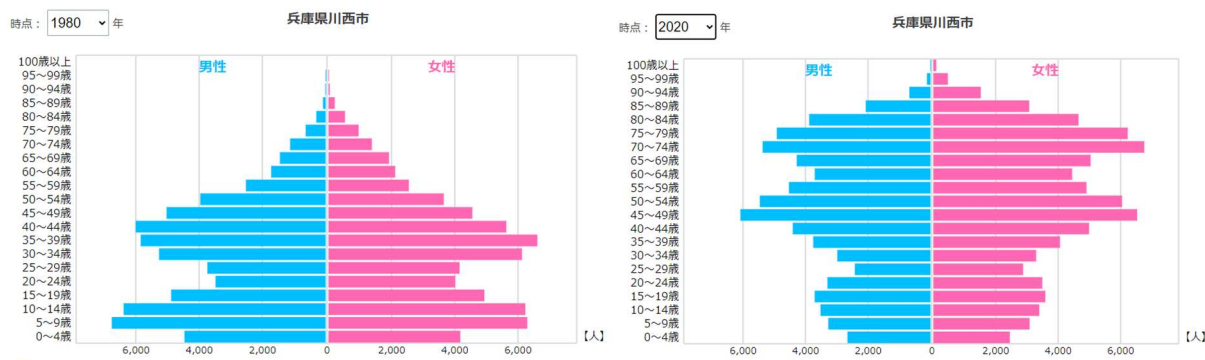


川西市内の経済動向分析 ～最新の人口から見る～

川西市の人口は、昭和40年（1965年）以降から大規模な住宅団地の開発が行われ、人口が急増し、平成17年（2005年）を境に人口が減少に転じています。統計で見れる1980年の人口ピラミッドでは5～9歳が最も多く、次に40～44歳が多くなっています。最近発表された2020年を見ると45～49歳が最も多く、次に70～74歳が多くなっています。65歳以上が占める割合は6.7%から32.3%（兵庫県の場合9.2%から29.3%）で急激に高齢化が進展していることが分かります。また、2020年の転入超過数総数235人、転出超過数総数989人と人口流出が見られます。



1980年

2020年

(いずれも e-Stat より)

市内の産業は、開発当時は建設業や不動産業にとって好機であり、地域経済に活気をもたらしていました。高齢化が進むにつれ医療・介護サービス業や福祉施設の需要が増加しています。介護事業所数をみると、2009年から7年ほどで81事業所から153事業所と約2倍増えています。(RESAS 産業構造マップより)

人口減の要因としては、高齢化の急激な進展や出生数の減少に加え、転出超過が挙げられます。人口減少により、市税収入が減少し、行政サービスや公共交通機関の利便性が低下してしまいます。このことは、川西市の労働人口を支えているサービス業や小売業にとっても大きな影響を及ぼします。

地域経済の発展及び住み続けられる持続可能な街を目指すには、平成29年に完成した新名神高速道路川西ICを活かした産業の活性化と若い世代や子育て世代に魅力ある街づくりが必要であると考えられます。

また、雇用を支えている小売業やサービス業においては、高齢者へのサービスも含めより地域住民のニーズをとらえた商品・サービスの提供が必要であると考えられます。